

課題名 温州みかんの樹令別収量 — せん定と収量

成果の要約 収量は樹令20～25年生で最高に達した。隔年結果はせん定によって大きくなる傾向があり、樹の状態に適したせん定を十分考慮する必要がある。

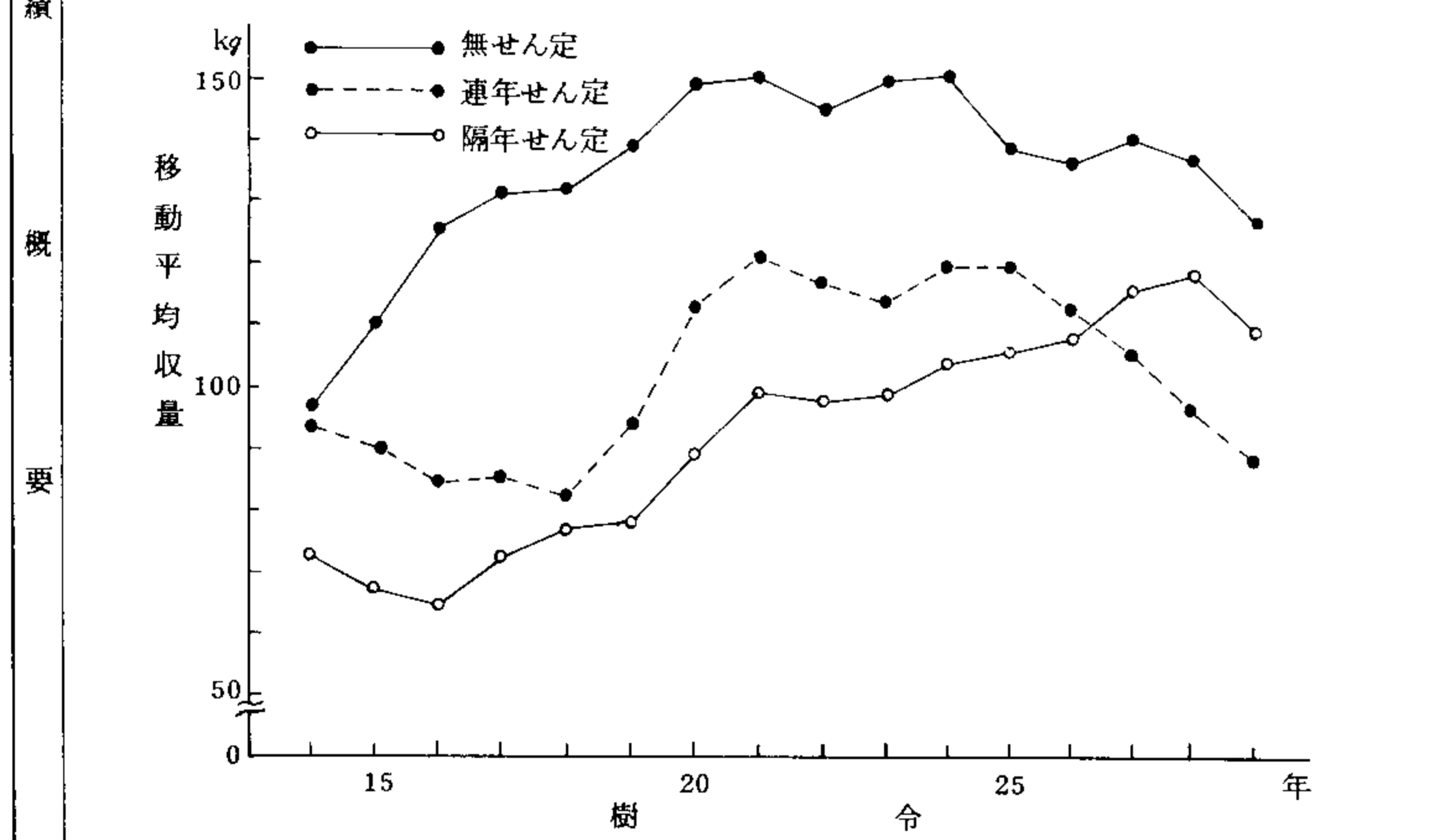
果試で実施してきた林系と伊木力系の無せん定、隔年せん定、連年せん定、各2樹について樹令別の移動平均収量と隔年結果指数を求めた。

(1) 収量の推移は、移動平均収量が樹令20年生前後ではほぼ最高にその後、数年間わずかに増減する早期安定型と樹令25年前後まで増加する安定後期安定型に分かれる。

(2) 連年せん定樹は早期安定型を、隔年せん定樹は後期安定型を示し最高収量はいずれも1樹当たりほぼ120kgであった。

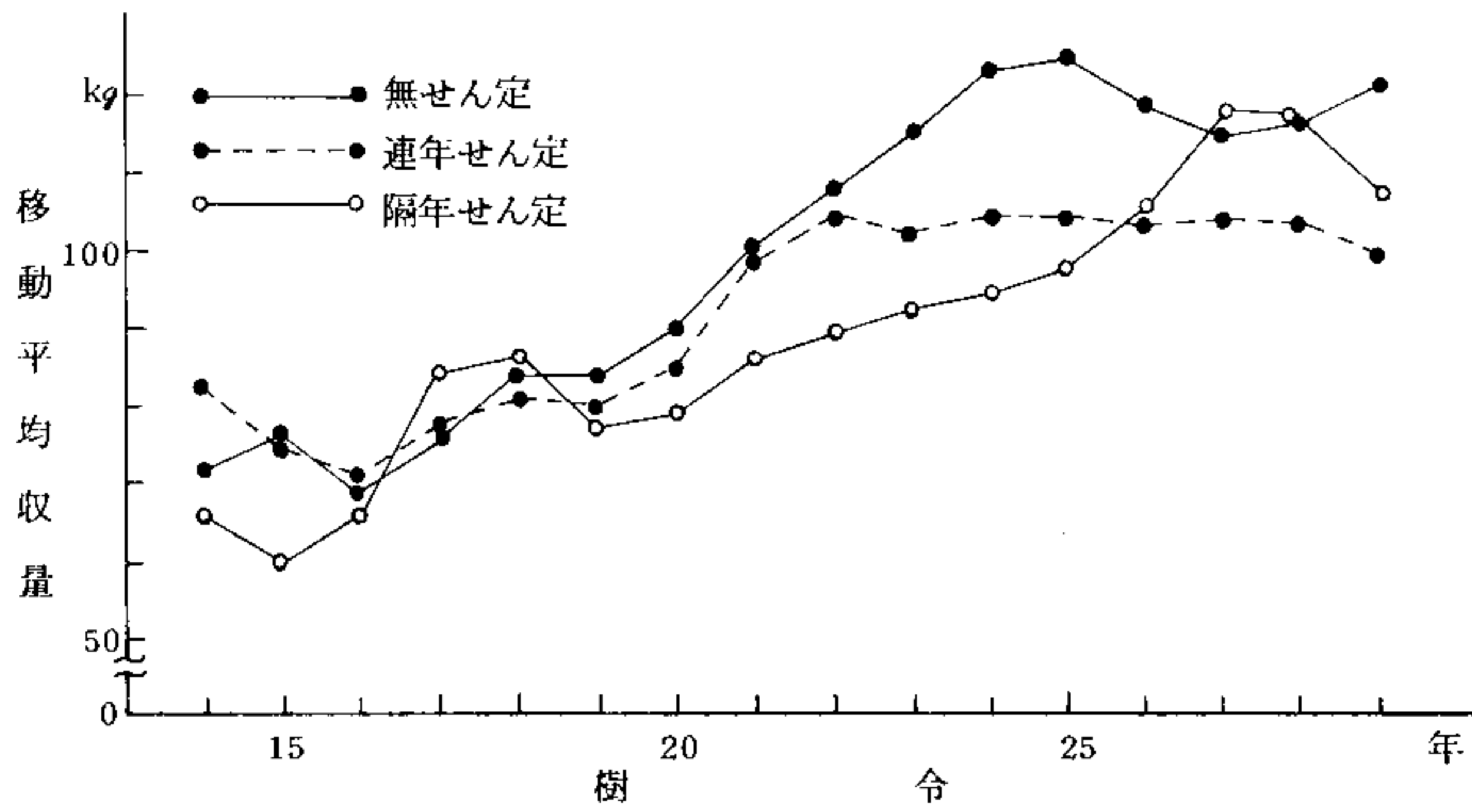
(3) 無せん定樹では林系は早期安定型で最高収量は1樹当たり150kg、伊木力系は後期安定型で120kgであった。

(4) 隔年結果指数は、無せん定林系では早くから小さく、他はほぼ20年生までは年によってふれがみられ、その後は小さくなる傾向が見られた。



第1図 せん定と移動平均収量の推移 (林系)

成績



第2図 せん定と移動平均収量の推移 (伊木力系)

第1表 せん定と隔年結果指数

系統	処理	樹令																
		14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29年	
林系	無せん定	3	6	6	0	3	0	1	4	6	0	8	9	3	3	8	9	
	連年せん定	11	5	20	26	29	11	5	9	4	3	2	3	3	4	1	4	
	隔年せん定	18	11	2	9	19	23	12	1	3	6	5	2	0	3	11	10	
伊木力系	無せん定	24	3	4	8	17	17	9	6	6	5	3	3	4	2	4	4	
	連年せん定	23	14	1	3	9	8	3	4	5	7	4	1	3	3	0	2	
	隔年せん定	35	33	10	5	18	21	9	4	4	4	4	3	3	5	5	7	

その他

昭和57年度長崎県果樹試験場成績